

会社の現況

1. 事業概況

令和3年度の我が国は、前年から流行した新型コロナウイルス感染症がまん延し、各地で断続的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、国民生活や経済活動に大きな影響が生じました。また、エネルギー価格をはじめとした物価上昇により、今後の見通しが不透明な情勢となった1年となりました。

そのような中、冷蔵倉庫は国民生活や経済活動を支える必要不可欠な存在として、緊急事態宣言下においても必要な機能を維持することが求められた1年でありました。しかしながら、冷蔵・冷凍部門では飲食店向けの食品の需要が回復せず、凍氷部門では催事の中止等による売上の減少が続くなど、コロナ禍による社会の変化が起きる中、当社は市民の皆様へ食の安心・安全を確実に提供できるよう努めてまいりました。

当社といたしましては、このようなコロナ禍の厳しい経営環境の中にあっても、収入面においては市場内事業者及び市場外事業者への販路拡大を推進することで売上を維持し、支出面においては高水準にある動力費を節電努力等により抑制に努めるなど、当期純利益の確保を図ってまいりました。

結果、今期の売上は保管料と凍氷販売を合わせた売上総額は372,170千円（前期比98.1%）となり7,232千円減収となりました。

一方、支出につきましては支出総額で、334,477千円（前期比97.7%）となり7,781千円減となりました。

（1）冷蔵保管部門

容積建保管の売上は208,225千円で前期比98.7%となりました。一般保管に関しては冷凍品・冷蔵品を合わせた売上高が154,138千円で前期比98.6%となりました。

（2）凍氷部門

販売数量は475屯（前期比80.3%）で売上高9,807千円（前期比80.5%）となりました。

(3) 両部門合計

売上高合計は、372,170 千円で（前期比 98.1%）となり、7,232 千円の減収となりました。

2. 冷蔵設備状況及び製氷日産能力

冷蔵庫	新 1 号棟	1,060 屯		
	2 号棟	4,350 屯	（内超低温	1,294.6 屯）
	3 号棟	10,674 屯	（内超低温	268.0 屯）
	合 計	16,084 屯	（内超低温	1,562.6 屯）

凍氷 製氷日産能力 1 日当たり 20 屯

3. 課 題

当面の課題として、老朽化が進む 3 号棟自動倉庫の機械装置の修繕や、将来のフロンガス全廃を見据えた環境に優しい冷凍機への変更などを計画的に実施すること、今後も高水準が見込まれる動力料については低廉な電力供給契約を維持し、細やかな節電を実行して電気使用量の抑制に努めること、社員の高年齢化が進んでいることから、事業継続のために必要な人材確保に向けた取り組みを行っていくこと、などがございます。

また、中長期的な課題として、川崎市卸売市場経営プランに基づき実施される施設の機能更新等について、開設者や市場内事業者と連携して取り組むこと、などがございます。

以上の課題をしっかりと意識した運営を行うことで会社経営の安定化に努めてまいります。

4. 財産及び損益の推移

今期末における総資産は 437,450 千円で前期末に比べ 23,060 千円減少しました。また、純資産については 50,413 千円で前期末に比べ 26,677 千円増加しました。

損益状況では、当期純利益は 26,677 千円となり、その結果、繰越損失は前期よりも 26,677 千円減少し、149,587 千円となりました。

また、借入金については借入金総額 1,650,000 千円に対し、今期の返済額は 49,200 千円で、期末借入金残高は 110,700 千円となっています。